

(株)ケーブルメディアワイワイ

熱戦の模様をデータ放送でも提供



宮崎県延岡市、日向市など2市6町をサービスエリアとする(株)ケーブルメディアワイワイ(本社:宮崎・延岡市、松居龍社長、以下ワイワイ)。そのワイワイは、新たなデータ放送の活用として、高校野球県予選の情報を提供している。

米良徹平氏 クリエイティブ事業局 主任

スマートな情報システムを

ワイワイは平成22年度総務省の「地域ICT利活用広域連携事業」に採択され、主に高齢者向けの「買い物支援サービス」や「見守りサービス」を展開している。また、地域生活支援サービスとしてデータ放送に着手。行政情報や防災情報など地域生活に役立つ情報を提供している。

ワイワイはこれらのサービスのインターフェイスとして(株)メディアキャストのデータ放送システム「DataCaster M3」を採用した。

「DataCaster M3」の採用理由として「情報化社会の中、インターネットには情報があふれている。データ放送は地域に必要な情報だけを掲載できることが強み。「DataCaster M3」は既存のコンテンツにとらわれず、地域に必要なコンテンツを独自に開発できる柔軟性を重視した」と米良氏は説明する。

提供情報は、暮らし情報として天気予報や交通情報(JR時刻表・空港情報・バス時刻表など)、放送エリアの自治体別に行政情報、防災情報、イベント情報等を提供している。これらの情報に加えて、セットトップボックス契約者だけが閲覧できる、地域新聞ニュース、お悔み情報、観光案内なども提供している。「データ放送を利用してもらうには更新頻度を上げる必要があり、そのためには運用者の負担を軽減することが大切。自社入力、外部入力、外部連携機能で、誰もが負担なく運用できるシステムになっています」と米良氏は説明する。

生きている情報をデータ放送で

ワイワイは、宮崎ケーブルテレビ(宮崎市、以下MCN)、BTVケーブルテレビ(都城市)の宮崎県内のケーブルテレビ局3社と地元民放局のMRT宮崎放送との共同で、夏の高校野球県予選の生中継を毎年行なっている。

生中継は、宮崎市にあるサンマリンスタージアム宮崎で行われる準々決勝までの全試合で、映像は宮崎県内の情報ハイウェイ(光ケーブル)を通じて各局へと送られる。

ワイワイは、この熱戦を映像に加えデータ放送でも提供。現地からの映像をワイワイ局舎(延岡市)で視聴し、試合に動きがあるごとにデータを更新。提供されているデータは、中継中の試合のスコアボードはもちろん、対戦カード、トーナメント表、チーム紹介と、これを見ればすべてがわかるほどの詳しさだ。また、中継がないもう一つの会場(宮崎市:アイビススタジアム)の情報も、現地スタッフから送られたデータを見ながらワイワイ局舎スタッフが入力している。

これらのデータは同じ「DataCaster M3」を利用しているMCNのデータ放送とも共同利用され、MCNのデータ放送にも提供されている。「高校野球中継はカラーコンテンツ。ワイワイにも対戦結果や放送日程の問合せなど反響も大きい。その中で対戦結果などいつでも確認できるデータ放送の付加価値を加えることでお客様からも大変好評。またMCNとの共同運用で業務負担軽減などメリットも大きい」(米良氏)とのこと。同じ「DataCaster M3」を採用し



データ放送トップ画面



スコアボードを表示



トーナメント表を表示



高校野球のスコアデータは局舎内で入力

た局間連携の成功事例と言えよう。

「自治体や加入者からの要望に応じてきました。今後もニーズに応えた新サービス、「生きている情報」を提供し続けます」と米良氏は語る。そして、データ放送が「地域の生きている情報」の中核を担う存在になっていくと米良氏は説明する。